

平成30年度 かんだ連雀 事業報告

I 概要

1) 利用者動向

特養の年間稼働率 95.0%。入所 14 名、退所 18 名。平均介護度は 3.9（前年度 3.9）。医療対応は人工肛門が 2 名、導尿 1 名、胃瘻 1 名。

通所介護は稼働率が 58.4%

2) 職員・育成

今年度も引き続き人材確保について状況は好転せず派遣や人材紹介の利用は続いた。派遣解消に取り組んだが、特養、看護、通所介護で派遣職員を利用せざるを得ない状況となった。看護については正職員 2 名を中心に介護との連携強化が図れた。通所介護では年度途中での管理者変更等もあり混乱があったものの、年度末にかけて徐々に育成にも取り組めるようになってきた。居宅は 4 名体制を目指したものの 3 名体制のままであった。

II 平成 30 年度事業計画についての報告

ア) 社会福祉法人として利用者満足を追求する

- ・研修委員会で接遇の標語を作成して掲示。全体朝礼と部署朝礼で唱和し、意識の向上を図った。
- ・外部研修に参加した職員が、報告研修を行い全体で学んだ。改善が見られた。
- ・管理者および責任者のコンプライアンスの意識が上がっているが、確認の仕組み作りには至らなかった。
- ・専門職（介護・看護・訓練・栄養・相談・事務）としてのサービス向上を目指し、チームケアの実践として、1 部署 1 つ以上の課題に取り組んだ。

イ) 社会福祉法人として家族支援のための地域の拠点となる

- ・包括、居宅、サービス部門が同じ施設という環境を活かし、日常的に情報の共有、議論、協働を重ねることで利用者に最適なサービスを実現することができた。
- ・地域拠点としての機能の基盤を固める取り組みとして、かがやきプラザ相談センターとあんしんセンターの役割明確化に努め、その機能を地域に活かすことに取り組み、一定の成果をあげつつある。
- ・かんだ連雀を拠点とした地域向けのボランティアグループ育成のため、前年度より引き続き、かがやきプラザ相談センター、千代田区社会福祉協議会と協働し、すみれ会活動に取り組んできた。

ウ) 社会福祉法人を担う職員の育成・定着・働きやすい環境作り

職員体制の安定化に向けて

- ・特養の業務見直しを継続的に取り組んだ。また、高齢者あんしんセンターでの業務整理により、超過勤務の減少に繋がった。
- ・人材確保の新たな仕組み作りを試みたが、達成できなかった。次年度へ引き継ぐ重要課題となった。
- ・千代田区で行っている介護人材の確保を目的とした腰痛軽減への取り組みを積極的に取り入れ、労働安全衛生委員会と共にアンケートを通して腰痛ベルトの着用に取り組んだ。また腰痛軽減を目的とした機器（HALL）の反映についてもモデル施設となり、千代田区及びかがやきプラザ研修センターと協働で取り組んだ。
- ・11 月にストレッチを実施。また心のケア研修には多くの職員が参加したが、その成果の評価方法については今後の課題となっている。

エ) 社会福祉法人としての組織力の強化

- ・毎月の経営会議で予算設置値と到達点の比較検討を行い、稼働率向上と経費節減に取り組んだ。見るべき成果は上げられなかったが、管理者および責任者の意識は上がり、次年度に繋がる土壌ができた。
- ・神田連絡調整会議の特徴を活かし、内部管理の第 1 歩を踏み出した。

平成 30 年度重点の動き

- ・千代田区の補助を活用して 1 階のあんしんセンター神田を移設し、その跡スペースを利用して、介護職員確保のための子育て支援事業を 3 月より開始した。（運営はしらとり）
- ・省エネ改修補助を活用して、課題であった特養フロアの空調入替（ガス→電気）を行うことができた。残る共有部分の空調および外壁、給湯設備等の改修に向けて、東京都大規模改修協議書の申請を行った。
- ・高齢者あんしんセンターでは、以前より課題であった要援助高齢者の把握と早期の支援介入を目指し、新事業を区に提案し、次年度からの『見守り相談窓口設置事業』の受託が決定した。
- ・かんだ連雀を拠点とするボランティアグループ『すみれ会』定例会および打ち合わせを定期的 to 実施し、地域包括ケアの一翼を担うため、在宅で行うボランティア活動を試行した。

III 事業別動向

区分	成 果	課 題
特養	ケアプランの整理ができた。接遇マナーに対する意識強化ができた。	稼働率確保。各役割の育成強化。
短期入所（空床型）	特養空床ベッドを活用し緊急ショートステイ受け入れを行った。	空床ベッドに対する呼びかけ、周知。
デイサービス	生活相談員に求められる判断や業務を年間通して育成することで、以前に比べて判断力がついてきた。	利用者の動線を意識した危険予知と活動の展開
ホームヘルプサービス	自費サービス開始に伴い、新規利用者獲得に繋がっている。院内介助も含めた通院同行など多様なニーズに対応している。	訪問介護員の確保
定期巡回・随時対応	看護との連携を意識した取り組みを重視し、利用者の変化に対し、より早期の対応を実践している。	サービスの更なる普及・周知活動
地域包括支援センター	看護職と福祉職セットで相談対応にあたり多角的な支援を実施。個別地域ケア会議を通し地域ネットワークの拡大に力を入れた。	高齢者見守り相談窓口業務（新事業）の推進
居宅介護支援センター	包括併設の居宅として困難ケースやターミナルのケースの受け入れを迅速に行い、慢性的な赤字の減少。	事業所加算の取得に向けての人員配置が必要
事務	前年度に続き、運営会議にて事業管理者等へ収入や加算、人件費等について説明を行い、意識の向上を図った。	拠点の収支改善。期限厳守のための迅速な事務処理。
管理	特養フロアの空調工事入替（ガス→電気）を実施した。	大規模改修の計画を推進する

IV リスクマネジメント

1) 苦情・第三者評価

第三者評価は 6 事業を実施した。苦情は 4 件あり。居宅介護支援事業所 2 件、事務 1 件、訪問介護 1 件。いずれも完結している。

2) 感染症等予防・蔓延防止の取組

通常疥癬の 1 名。入所前の施設で流行しており、入所前の確認事項としていく。その他感染症なし。

3) 緊急対応

救急搬送は 11 名（内 3 名急変による心肺停止状態）。委託医と連携し対応した。

4) 防災

毎月の防災訓練は、テーマや課題を決め緊張感のある訓練内容で行った。

5) 勤務管理

超過勤務の申告・把握はできたが、減少することができなかった。

V 事業別年間の実績概要

1) 入所部門

(単位：名)

	定員	利用者（実施数）				入院者数		新規利用		利用終了		平均		待機者
		延べ人数	月平均	稼働日数	利用実績(%)	実人数	月平均	実人数	月平均	実人数	月平均	要介護度	年齢(歳)	
特養	59	20462	1705	365	95.0	9	0.75	14	1.1	16	1.5	3.9	87.9	107
空床短期含む	(2)	172	14	365	20.5	—	—	6	0.5	—	—	2.0	82.2	—

※待機者は、申込書を提出したことがある者を言う。

2) センター部門

(単位：名)

	利用者（実施数）				新規利用		利用終了		平均	
	延べ人数	月平均	年間実人数	月平均実人数	実人数	月平均	実人数	月平均	要介護度	年齢(歳)
通所	2717	226.4	43	4.6	12	1	10	0.8	2.7	85.8
予防通所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通所合計	2717	226.4	43	4.6	12	1	10	0.8	2.7	85.8
在宅支援サービス	57	4.8	6	0.5	2	0.17	1	0.1	3.3	88.8
訪問介護	201	16.8	52	43	20	1.7	17	1.4	3.0	86.3
予防訪問介護	123	10.2	20	17	7	0.6	4	0.3	支 1.5	84.2
訪問介護合計	381	412.8	78	50.5	29	2.47	22	1.8	3.2	86.4
定期巡回	106	8.8	15	12	4	0.3	4	0.3	2.0	83.1

3) 支援センター部門

(単位：名)

		利用者（実施数）				新規利用		利用終了		平均	
		延べ人数	月平均	年間実人数	月平均実人数	実人数	月平均	実人数	月平均	要介護度	年齢(歳)
地域包括支援センター（総合相談）		2812	234	923	77	78	6.5	—	—	—	—
介護予防 推進事業	神田で元気になるがい き教室	101	16.8	—	—	—	—	—	—	—	—
	家族介護サロン	53	—	—	—	—	—	—	—	—	—
予防居宅		1798	149	218	18.2	69	5.7	72	6	支 1.4	82.1
居宅介護支援		1089	90.7	123	10.2	44	3.7	40	3.3	2.3	83.8

4) 苦情・事故報告

	延べ件数	月平均件数	解決件数	未解決件数	対応中件数
利用者からの苦情	3	0.25	3	0	0
事業所からの苦情	1	0.08	1	0	0
職員からの苦情	0	0	0	0	0
その他苦情	0	0	0	0	0
施設内事故	11	0.9	11	0	0
施設外事故	6	0.5	6	0	0